

1 文(文章)で解答する設問の答案については、次のA項の加点要素の合計から次のB項・C項の減点要素の合計を引いた得点をその設問の得点とします。ただし最低点は0点としマイナスの得点はつけません。

A項

- a 以下の採点基準では、模範解答をいくつかの要素に分割し加点要素とします。答案中にその加点要素に相当する部分があれば、その加点要素に配点された得点を与えます。
- b ある加点要素は、その加点要素に配点された得点か0点で採点することを原則とします。たとえば5点配点された加点要素であれば5点か0点で採点することを原則とします。ただし、その加点要素中の部分点を認める場合もあります。その場合それぞれの採点基準の中に明記されています。
- c ある要素に加点するか否かが、他の要素と無関係に決まる場合と、他の要素との関係で決まる場合があります。前者の場合は、その要素を単独採点(独立採点)すると言いその旨必ず明記されています。後者の場合は、他の要素との関係について以下の採点基準で具体的に指示されています。

d 解答通りという条件がある場合はいかなる部分点も認めません。

B項

- a 答案中に大きな誤読と判定される内容(語句)などがある場合は、その内容(語句)を減点要素として示されている場合もあります。
- b 加点要素でも減点要素でもない部分もあります。その部分は加点も減点もしません。

C項 次に該当するものは、答案の形式上の不備として、一箇所につき1点の減点要素とします。

- a 誤字。漢字などの文字の明らかな誤りは誤字とします。

b 脱字。

c 文末の句点の脱落。

* 字数指定のない場合、句点の脱落は誤字とし1点の減点とします。

d その他不適切と判断せざるをえない箇所。

- e 不適切な文末処理。設問の問い方に対応していない形で答案の文末を結んでいない場合は、適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備による減点要素とします。たとえば「…とはどういうことか?」という問いに体言で結んでいないものなどは適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備とします。また、理由が問われているのに、「から」などで結んでいないものなども適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備と見ます。
* ただし、「ことである」などの表現も「こと」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。また、「からである。」などの表現も「から」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。また文末の表現を問わない場合もありますが、その場合はその都度明記されています。

2 日本語の表現として不適切なものは程度に応じて減点します。

3 次の各項に該当するものは、部分点の要素があっても、その設問の得点を0点とします。

a 答案が解答欄の欄外にはみ出しているもの。

b 一行の解答欄に二行以上書いた場合もその設問の得点を0点とします。

c 字数指定のある設問で、字数をオーバーしたもの。

d 答案の文章が最後まで完結していないもの。

4 古文あるいは漢文の訳を記述する設問の場合も以上に準じますが、文末の句点や文末の処理あるいは答案の完結にこだわらなくともよい場合はその都度明記されています。

第1問

① (小説) 採点基準 (合計 50 点)

問一 5点 八

問二 5点

(模範解答例)

A 2点

「ぼっくり」という擬音が使われていることด้วย#

B 3点#

少し気分がなごんだ

〈別解〉「ぼっくり」という、気分が少しなごむような擬音が使われていた

各加点要素の加点の条件

【A・Bに関して部分採点を行う (A・Bそれぞれ単独に採点を行って構わない)】

A 「ぼっくり」という擬音が使われていること…2点

「ぼっくり」「擬音」という語がないものはそれぞれ1点減

B 少し気分がなごんだ (癒された) こと…3点

「少し心が晴れた」など、「頬を緩めた」に対応する適切な表現でポジティブな感情が生まれたことを変えていけば○。

「おかしい」あるいは「頬を緩めた」だけでは2点

ポジティブな感情表現に触れていないが、かろうじてポジティブなニュアンスを読み取れる場合は1点。

問三 6点 (各3点) X || 二 Y || イ

問四 10点

(模範解答例)

A 5点

死とは、ある瞬間に肉体が全部を無駄にしなくてはならなくなる状態で、#

B 5点

存在の圧迫が突如消失して埋めるものがないことである。#

各加点要素の加点の条件

【A・Bに関して部分採点を行う (それぞれ単独に採点を行って構わない)】

A 死とは、ある瞬間に肉体が全部を無駄にしなくてはならなくなる状態…5点

「ある瞬間に肉体が」の要素に1点

「全部を」の要素に2点

「無駄にしなくてはならない」の要素に2点

B 存在の圧迫が突如消失して埋めるものがないこと…5点

「存在の」の要素に1点

「圧迫」という要素に1点

「突然消失して」の要素に2点

「埋めるものがない」の要素に1点

* 「精巧で活発な細胞の結合体が、或る瞬間に、そのほんの些細な一部の機能の不全の為に、全部を無駄にせねばならないと云う事。それを前にし、あると感じた存在の圧迫が、突如消失して、しかも埋めるものがないと云う事」の部分をもとめる

問五 4点 II

問六 15点

(模範解答例)

A 3点

祖父の場合は、自分が死というものをよくわからず、

B 2点#

病床を十分に見舞わなかったことを後悔するとともに、

C 3点#

自分の酷薄な部分を発見したのに対して、

D 3点#

伯父の場合は、よく見舞いに行ったので後悔はなく

E 4点#

苦しまずに済んで、諦念の心境に至った。#

各加点要素の加点の条件

【A・B・C・D・Eに関して部分採点を行う(それぞれ単独に採点を行って構わない)】

A 祖父の場合は、自分が死というものをよくわからなかったこと…3点

B 病床を十分に見舞わなかったことを後悔したこと…2点

「見舞わなかった」「後悔」の要素でそれぞれ1点

C 自分の酷薄な部分を発見したこと…3点

D 伯父の場合は、よく見舞いに行ったので後悔はなかったこと…3点

「見舞いに行った」で1点、「後悔はなかった」で2点

E 苦しまずに済んで、諦念の心境に至ったこと…4点

「苦しまずに」「諦念」の要素でそれぞれ2点

第2問

問一

基準 配点: 2点×4

■模範解答 ※解答例通り(漢字書き取り問題)

- 1 魅力
- 2 侮蔑
- 3 示唆
- 4 模索(摸索)

問二

基準 配点: 3点

■模範解答 ※解答通り(記号選択問題)

ホ

問三

基準 配点: 3点×2

■模範解答 ※解答例通り(記号選択問題)

a ハ

b ホ

問四

基準 配点: 5点

■模範解答 ※解答通り(記号選択問題)

口

問六

基準 配点： 5点

■模範解答 ※解答通り（記号選択問題）

二

問五

■形式上の不備

- ・文末表現…要素B参照／理由説明の結び「くから」になっている場合は、要素B不可
- ・句点の扱い…1点減点

基準 配点： 8点

■模範解答 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容

A

西欧では周囲に依存しない相互独立的自己観を重視しているにもかかわらず、

B

家庭での実践が子どもの依存性を高める結果につながっているということ。

■採点方法…各要素単独採点

■字数…七十字以内 三十四字以下のもは全体不可（0点）

■要素A 西欧では周囲に依存しない相互独立的自己観を重視しているにもかかわらず…4点

- ・西欧で重視される点として「独立性」があることを説明していないものは、要素A加点なし
- ・西欧の説明をしているということが全体から読み取れれば「西欧では」という文言はなくてもよい。読み取

れない場合は0点

■要素B 家庭での実践が子どもの依存性を高める結果につながっているということ：4点

- ・西欧の実態に「依存性」があることを説明していないものは、要素B加点なし。ただし「依存性」という言葉がなくても、要素Aの独立性の「正反対」等という言葉で代用している場合は2点減点のとどめる。
- ・同意例：親が家庭で子供の宿題を手伝ったりして依存性を高めてもいるということ
- ・同意例：母親が子供の依存性を助長する行動も取っているということ
- ・要素Aと要素Bが「矛盾」する関係、「逆説的」な関係であることを説明できていない場合要素B加点なし
- ・依存性を高める行動をとる理由を説明している場合など、余計なものを書いてある場合はその個数にかかわらず2点減点

問七

■形式上の不備

- ・文末表現：要素E参照／理由説明の結び「くから」になっている場合は、要素E不可
／内容説明の結び「くこと」にする必要はない
- ・句点の扱い：1点減点

基準 配点：15点

■模範解答 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容

A

私たちの社会の子どもは、社会の中での相互承認を達成するために、

B

短時間での決断を迫られるが、

C

サンの子どもは、画一的な社会貢献を求められるのではなく、

D

自然の中での長期間の遊びを通して生活に必要な知識や技術を身につけて、

E

その社会における自分の適性にあつた役割を理解し、かつ担うことで相互承認を達成している。

■採点方法…各要素単独採点

■字数…百五十字以内 七十四字以下のものは全体不可（0点）

■要素A 私たちの社会の子どもは、社会の中での相互承認を達成するために…3点

・「私たちの社会の子ども」が「社会での相互承認」を必要とすることを説明していないものは、要素A加点数なし

■要素B 短時間での決断を迫られるが…3点

・要素Aの「相互承認」が「短時間」「短期間」になされることを説明していないものは、要素B加点数なし

・同意例…青年期のうちに決断を迫られるが

■要素C サンの子どもは、画一的な社会貢献を求められるのではなく…3点

・「サンの子ども」は、「私たちの社会の子ども」とは異なり、「画一的ではない」ことを説明していないものは、要素C加点数なし

■要素D 自然の中での長期間の遊びを通じて生活に必要な知識や技術を身につけて…3点

・「サンの子ども」が、要素Bに対して「長期間」の中で生活に必要な知識や技術を身につけることを説明していないものは、要素D加点数なし

・同意例…自然の中での遊びを通じて、徐々に知識や技術を身につけて

■要素E その社会における自分の適性にあった役割を理解し、かつ担うことで相互承認を達成している：3

点

・要素Dの中で自分の役割を理解し、「社会での相互承認を達成している」ことを説明していないものは、要素

E 加点なし

・同意例…どういった仕事をしていくかを理解し、相互承認を得ている

*「サンの子ども」のあり方が問いの中心であるので、「私たちの社会の子ども」の説明は簡潔にまとめる

■別解答 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容

A

分業が行われ職業が専門化した私たちの社会の子どもは、

B

何を学び、何の仕事をするかという問いに、青年期に短期間で決断を下すことで

C

相互承認を目指すが、

D

共同して狩猟採集活動を行うサン社会の子どもは、

E

長い年月、自然のなかで遊ぶことで徐々に身につけた狩猟採集に必要な知識と技術によって

F

おのずと相互承認を達成する。

■採点方法…各要素単独採点

■字数…百五十文字以内 七十四字以下のものは全体不可(0点)

「私たちの社会の子ども」の説明として、以下の要素があれば各要素点を与える。

■要素A 分業、職業の専門化（社会貢献のあり方に選択肢が多い）…1点

■要素B 教育や職業を青年期に短期間のうちに決断しなければならない

（どのように社会に貢献するのかの選択を短期間に迫られる）…3点

※「短期間」や「短い時間で」という内容がない場合は要素点を与えない。

■要素C 相互承認をめざす（達成できないこともある）…3点

※「相互承認を達成しようとしている」は○だが、「相互承認を達成している」という内容になっている場合は、要素点を与えない。

「サン社会」の説明として以下の要素があれば各要素点を与える。

■要素D 分業、職業の専門化がほとんどみられない

（社会貢献のあり方に選択肢がほとんどない）…2点

■要素E 子どもは遊びの中で、将来必要な知識や技術を、長い時間の中で徐々に身につける…3点

※「長い時間の中で」や「時間をかけて」という内容がないものは要素点を与えない。

■要素F おのずと相互承認を達成する…3点

第3問

問一 ㉑ てならい ㉒ うづき

㉓ おんぞ(みぞ・おほんぞ・みそ・みけし)

㉔ うちき(うちき)

↓(1) 解答通りでないダメ。(各1点)

問二(5点×3)

a (1点) b (1点) c (2点) d (1点)

問二・A・模範解答例

やはり、このような有様では長くここにすることはできません

(5点)

【各部の採点】 5点満点。加ポイント4箇所

a 「やはり」……………1点。「やっぱり」の意。

b 「このような有様では」……………1点。「かくては」の解釈。「こんなふうでは」でも可。「このようでは」も可。

c 「長くここに」……………2点。「(母宮に)お仕えし続けること」の意味。「生きていく」はダメ。「続ける」だけでもダメ

d 「できません」……………1点。「～できない」「～することが難しい」のような丁寧の表現のないものでも可。

問二・C・模範解答例

ただ自分一人の心の中で寝ても覚めてももの思いにふけりながら (5点)

a (2点)

b (1点)

c (2点)

【各部の採点】 5点満点。加ポイント3箇所

a 「ただ自分一人の心の中で」……………2点。「誰にも相談できず、自分ひとりで」の意を感じ取ることができなければダメ。

b 「寝ても覚めても」……………1点。「夢の中でも現実でも」の意。「たえず」でも良し。「一日(中)」はダメ。

c 「もの思いにふけりながら」……………2点。「もの思いにふける」+「～ながら～し続けて」の解釈。「もの思いにふける」の意味が取れないものはダメ。意味が取れて「～しづから～し続けて」が書けていない場合は1点減点

問二・F・模範解答例

a (1点) b (2点) c (2点) (5点)

気持ちよさそうに面白がり合っているのももつともなことだとは思いますが、

【各部の採点】5点満点。加点ポイント3箇所。

- a 「気持ちよさそうに」…1点。「気分よさそうに」も可。単に「気持ちよく」など、「～そうに」の意が出ていないものはダメ
- b 「面白がり合っている」…2点。「お互いに～」の意＋「面白がる」＋「～ている」の存続の意。完答。
- c 「もつともなことだとは思いますが」…2点。「もつともだ・当然だ」＋逆接「～ながらも」。完答・

問三 (8点)

問三・模範解答例

- a (1点) b (3点) c (2点)

山奥の暮らしでは、寂しさを紛らわすために人が見るといふ絵物語さえ

- d (1点) e (1点)
- 手に入れることができないということ。

50字 (8点)

【各部の採点】8点満点。加点ポイント5箇所。四〇字以下のものはすべてマイナス2点とする。

- a 「山奥の暮らしでは」…1点。「こんな吉野の山奥では」といふ言葉の追加。
- b 「寂しさを紛らわすために人が見るといふ絵物語」…3点。
「寂しさを紛らわす(退屈しのぎ)」＋「伝聞(といふ)」＋「絵物語」のような条件がそろっていること。この三つのニュアンスの成分のうち、どれか一つが欠けるたびに1点のマイナス。
- c 「さえ」…2点 「だに」の類推用法の訳出。「～ですら」でも可。
- d 「手に入れることができない」…1点。「入手困難」といふ内容。「あるはずもない」も可。
- e 「ということ」…1点。「～ということ」といふ文末処理。ただ、これだけ正解では加点無し。

問四（6点）

問六・模範解答例 山中のみすぼらしい住まいを見られること。（6点）
a（3点） b（2点） c（1点）

【各部の採点】6点満点。加点ポイント3箇所。

a「山中のみすぼらしい住まいを」…3点。「姫君の住居がこんなみすぼらしい山の中であること」でも可。「みすぼらしい」のないものはマイナス2点。「山中の」のないものはマイナス1点

b「中納言に見られる」…2点。「都の人である中納言がこのみすぼらしい住まいをどのように思ってみるか」という内容。

c「こと」…1点。文末処理。これだけ正解では加点無し。

問五（5点）

問五・模範解答例 姫君の、つらい俗世ではないところに行きたいという願い。（27字）（5点）
a（1点） b（3点） c（1点）

【各部の採点】5満点。加点ポイント3箇所。

a「姫君の」という願い」…1点。文頭と文末のカタチ。

b「つらい俗世ではないところ」…3点。「俗世のようなつらくはない場所」でも可。「俗世」は「この世」「世の中」といった表現であれば可

c「行きたい」…1点 「逃れたい」でも可。

問六（8点）

問六・模範解答例 若い姫君が山中の生活で寂しさを紛らわしかねているだろうと
a（1点） b（3点）

c（3点） d（1点）
気の毒に思ったから。（38字）（8点）

【各部の採点】8点満点。加点ポイント4箇所。三〇字以下のものはマイナス2点。

a「若い姫君が」…1点。「おさない姫君が」「まだ年端もいかない姫君が」のような書き方。「若い」に類する表現がなければ不可

b 「山中の生活で寂しさを紛らわしかねているだろう」…3点。「山中での暮らしをもてあましているだろう」も可。
「山中」「寂しさ」「紛らわす」のニュアンスの三成分でそれぞれ
1点。「紛らわす」については「手持ち無沙汰、退屈。やること
がない」という状況が伝われば可

c 「気の毒に思った」…3点 「かわいそうだと感じた」でも可。「心苦し」の解釈。

d 「〜から」…1点。「〜ので・〜ため・〜から」のような文末の処理。これだけでは加点しない。

問七 ハ・ホ (各2点)

第4問

〔四〕(漢文) 採点基準 (合計≒50点)

問一 【解答通り】各2点 2×4≒8点

解答

a ≒ また b ≒ つひに (ついに) c ≒ みづから (みずから)
d ≒ のみ

採点基準

- ・現代仮名・歴史的仮名遣いともに可。
- ・現代仮名遣いと歴史的仮名遣いが混在していても可。

例 b 「つひに」 c 「みづから」
b 「ついに」 c 「みづから」

問二 各4点 8点

模範解答

(i) ためにしよくをそなえず。

採点基準

- ・「そなへ」は歴史的仮名遣い…減点1点。

a 2点 b 1点 c 1点

模範解答

(ii) 亭長の妻は、韓信のために 食事の準備をしなかった。

採点基準

- ・ a 「妻」のみは…減点1点。
- ・ b 「ために」はなくとも可。
- ・ c 「作らなかった」「与えなかった」「準備しなかった」等。「食事」に類する表現がなければ不可

a 2点 b 1点 c 1点

解答例

1 亭長の妻は 韓信に 食事を作らなかった。…4点

a 2点 b 1点 c 1点

2 亭長の妻は 韓信に 食事を与えなかった。…4点

a 2点 b 1点 c 1点

3 亭長の妻は 韓信に 食事の準備をしなかった。…4点

4 食事を口にしなかった。…0点

5 食べものがなかった。…0点

問三 【解答通り】 各2点 8点

解答 1 || イ 2 || ホ 3 || ロ 4 || ホ

問四 6点

模範解答 || どうして あなたに 食事を与えた 見返りを

a 2点 b 1点 c 1点 d 2点

e

求めようか、いやそんなものをもとめてはいない

採点基準

- ・ a aとeの組みで反語表現であること。
 - ・ e 「求めるわけがない」「求めない」など
 - * 反語の意がとれていて、aかeどちらかが不可の場合は1点減点
 - ・ b 「あなた」は「韓信」も可。ただし、会話文なので「あなた」の方がよい。
 - ・ b 「私は」はなくとも可。
 - ・ c 「助けたこと」など。
 - ・ d 「報酬」「報い」「お(礼)」など可。
- * 反語表現でないものは0点。

a 2点 c 1点 d 2点

問五 4点

解答 || 怯

問六 8点

模範解答 || 漂母が 韓信を憐み 無償で助けた のに対し、

a 1点 b 1点 c 2点

d 1点 e 1点 f 2点

亭長は 韓信の面倒を見ることを 途中で止めてしまった から。

採点基準

- ・ a 「婦人」「洗濯の婦人」など可。
- ・ b 「憐み」「気の毒に思い」などないものは不可。
- ・ c 「続けた」は「最後まで」など可。
- ・ c 「無償で」「最後まで」のどちらか、あるいは両方がない場合・・・1点。
- ・ d 「亭長の妻」は不可。
- ・ e 「面倒を見る」「食事を与える」などないものは不可。
- ・ f 「途中で見捨てた」など可。
- ・ f 「途中で」などがない場合・・・1点
- * b・ e 「韓信」について、どちらかで「韓信」と明記しており、類推が可能な場合、片方は省略しても可。
- * c・ e 「面倒を見る」「助ける」についても、どちらかで明記されていて類推可能な場合片方省略しても可
- ・ 四十一文字以上ない答案には「字数不足0点の可能性あり」

問七 8点

模範解答

|| 韓信は、 人前での股くぐりの辱めを 小事と考えて耐え、

a 1点

b 1点

c 2点

d 2点

e 2点

後に 漢建国の功績を挙げ 楚王にまでなった ということ。

採点基準

- ・ b 「人前での」はなくとも可。
- ・ b 「辱め」はなくとも「股くぐり」のみも可。
- ・ c また、「股くぐり」はなくとも「辱め」のみも可。
- ・ c 「小事と考えて」がない場合・・・1点。
- ・ c 「堪え・耐え」「我慢し」など。
- ・ d 「漢」「建国」のニュアンスの二成分でそれぞれ1点。
- ・ e 「楚」がなく「王」のみの場合1点。